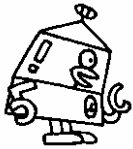


キンギョのオス、メスの見分け方を教えて



たまごでメスのおなかがふくらみ、オスがメスを追いまわす時期にならないと、オス、メスは見分けにくいよ。

外側から見ただけでは、キンギョのオス、メスは見分けにくい

キンギョのオス、メスは、体の大きさや形にちがいがないので、外側からは見分けが付きません。ふつうは、メスがたまごを産むあなと、オスが精子^{せいし}を出すあなの形のわずかなちがいで見分けるので、キンギョをいつもあつかっている、プロの人でないと、なかなか見分けるのはむずかしいでしょう。

キンギョは、水温が 20 以上になる春から夏にかけて、たまごを産む時期になります。すると、成長しておとなになったキンギョなら、オスがさかんにメスを追いかけて回すようになります。メスのほうも、おなかにたまごができて、オスとくらべると、おなかが丸くなってきます。

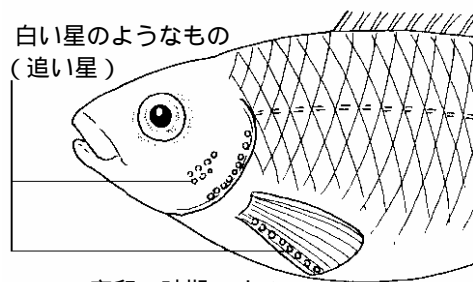
こうなると、水そうを観察していれば、オス、メスがわかるようになります。

追いかけて回しているオスのえらぶたの近くに、白い点^{あらか}が現れる

たまごを産む時期に、おなかがふくらんだメスを追いかけて回しているオスを、虫めがねなどで観察すると、えらぶたや胸びれ^{むね}の上に、小さくて白くとび出した星のようなものが、点々と現れています。これが、オスを見分けるのに役立ちます。

水面近くに水草をたばねてうかせてやると、オスがメスの腹^{はら}をつついたりして水草のそばで産卵^{さんらん}させ、たまごの上にオスが精子のまじった液^{えき}をふりかけます。

メダカと同じように、たまごは水草ごと別な水そうなどに移さないと、えさとまちがえられて、ほかのキンギョに食われてしまいます。



産卵の時期のオス